第４４回議会報告会　～テーマ別タウンミーティング～
［市民福祉委員会］

開 催 日：令和５年１１月４日（土）
場　　所：中央公民館　講堂
参加人数：9 人（内訳：会場参加者 3 人、議員 6 人）

【テーマ】「家庭でできる地球温暖化対策」

≪主な意見・内容≫

①地球温暖化に対する世界の共通認識について

・アメリカのパリ協定離脱の動き、スウェーデンのグレタさんに対しての批判的意見もあった。しかし産業革命以降、石炭、石油など化石エネルギー使用の急増で二酸化炭素をはじめとする、温室効果ガスの大量排出により地球温暖化は急速に進み、世界中が待ったなしで取り組まなくてはならない、最重要課題であることの確認。
・メタンガスは二酸化炭素の数倍の温室効果があるが、排出量は極めて少ないため二酸化炭素化炭素の削減が最も重要。
・世界中の科学者の統一見解。
地球温暖化の要因については様々な議論があるが、温室効果ガスの影響は確実で中でも CO2 が最も影響しその削減が求められる。
世界的枠組みはパリ協定を採択した COP21 で方向性が示されている。
–

②再生可能エネルギー比率の向上について

・「知立の環境」によると二酸化炭素の排出部門別の排出量の推移では、民生部門(商業、一般家庭)の比率が最も高い。住宅用の太陽光パネルの設置推進が求められる。
・太陽パネルの発電効率は飛躍的に向上している。省スペースで設置が可能であり個々の取り組みをすすめるべきでは。
・発電量 2.9kW の太陽光パネルでほぼ生活に必要な電力が賄え設置費用を含め、10 年で採算は取れた。
・パネル設置のための大規模開発によって緑地を犠牲にするのは問題。
・太陽光発電パネルの寿命は約 50 年。廃棄後の処分、リサイクルなどの課題も。

③個人住宅のイノベーションについて

・2 重、3 重ガラスによる部屋の高気密化で省エネ対策を。〈窓イノベーション〉
・省エネからゼロエネルギーへ。ZEH など基本的にエネルギーを消費しない家づくりを進めるべきでは。
・国の個人住宅に対しての補助は、省エネ、ゼロエネを目指している。制度を活用し個人レベルで家づくりでの環境対策、エネルギー対策を。

④ライフサイクルアセスメントについて

・製品の製造、流通、販売、使用、廃棄、再利用まで製品全体の各段階における環境負荷をあらかじめ評価することを目標とする。
生活の中でライフサイクルアセスメントを理解し発生する環境負荷を考えた消費生活を送るべきでは。

・EV 車の利用についても電気をつくること自体が、火力発電によるものであれば CO2 の発生と無関係ではない。

⑤緑化による二酸化炭素の吸収と温暖化防止について

・緑化率を上げ樹木による二酸化炭素の吸収をはかる。

・街路樹も含め剪定ごみは、現在焼却され二酸化炭素の発生源となっているが、チップ化し、たい肥として再利用し土に返すサイクルをつくれば、環境対策との効果が期待できるのでは。

・樹木から発散する水分は周囲の気温を下げ、また木の枝や葉は直射日光を遮り地表温度を下げる。市全体の緑化を進めるべきでは。

⑥その他

・河川敷に木を植えて緑化を進めたいが、河川法に基づき県による管理で許可されない。

・ゴルフ場やスキー場の開発などで木が伐採される。地球温暖化にもつながる環境問題ではないか。

・夏の日よけ対策は「よしず」がいいのでは。

・戦前の日本家屋は日本の風土に合っている。合理的。

・環境問題、地球温暖化対策は、個人の問題として取り組んでいくことが必要。